

令和6年度 宮崎県立妻高等学校 自己評価

教育方針	生徒一人ひとりに寄り添い、鍛え、伸ばし、自ら主体的に生きる力を身に付けさせる教育の推進	
目指す生徒像	1 主体性を持ち、自ら学ぶ姿勢と社会を切り拓こうとする志を有する生徒 2 思いやりと慈しみの心を持ち、共に学び考え解決を図ろうとする生徒 3 新たなものを創出しようという意識を持ち、未来に向けて行動することのできる生徒	
学科コースの目標	<u>普 通 科</u> 基礎学力を高め、社会の変化に対応できる人材を育成 <u>普通科文理科学コース</u> 優れた知性を鍛え、社会を切り拓くトップリーダーを育成	<u>情報ビジネスフロンティア科</u> 商業スキルを高め、グローバル・地域ビジネス人材を育成 <u>福 祉 科</u> 豊かな人間性を育み、福祉のプロ・リーダーを育成
本年度の重点目標 と具体的な取組	<u>1 確かな学力の向上</u> （進路の実現） ① 基礎学力の定着 ② 更なる授業力の向上 ③ やる気を育てる仕掛け ④ 系統的な進路指導・妻高スタイルの充実 ⑤ 資格取得の推進 ⑥ ICT活用能力の向上 <u>2 豊かな心の育成</u> （生命の安全・環境の充実） ① 規範意識の高揚、挨拶礼法指導等の充実 ② いのちを大切にする教育の推進 ③ 環境美化・整備、清掃活動の充実 ④ 防災教育の充実	<u>3 妻高ブランドの確立</u> （特色・魅力づくり） ① 各学科・コースの強みブラッシュアップ ② キャリア教育の充実 ③ 英検チャレンジの充実 ④ 探究学習の充実 ⑤ 個に応じた教育の充実 ⑥ 部活動の活性化 <u>4 地域とともにある学校創り</u> （地域・小中連携の推進） ① コミュニティスクールの推進 ② 広報活動の更なる充実 ③ 小中学校との連携、授業連携等の推進 ④ 地域行事への参画、ボランティア活動の推進

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
確かな学力の向上	① 基礎学力の定着	教務部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力定着のために宅習計画を作成し、宅習の習慣化を図る。学校生活アンケートで「家庭での勉強に集中できている」という項目を最低70%以上にする。(1・2年) ○ 成績不振生へのサポートと学習法のアドバイスをを行う。(特に2学期)最終的に全学年欠点者0を目指す。 ○ マナトレを利用し、学び直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年・各科における教科科目の学習時間(宅習モデル)を作成・活用し、年2回の宅習量調査の実施による実態把握及び改善の手立てを行う。 ○ 面談週間や三者面談期間を設定し、学習指導等のアドバイスをを行う。学期末に成績に関する会議を実施し、教科担任も含めた個別指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 評価の在り方と定期考査の在り方の協議を重ねた。定期考査の廃止を含め、R8年に向け、教科代表者会を中心に検討中である。 ○ 課題テストと実力テストの在り方検討。 ○ 学校生活アンケート「家庭で勉強に集中できている」と答えた生徒が、6月→10月の推移で、1年70.6%→70.3%、2年75.7%→75.4%、3年73.9%→83.9%、全体で73.5%→76.7%となり、昨年度同時期の66.6%→65.2%を上回っている。 ○ 来年度は入学後すぐに「学び直し」にとりかかれるよう計画する。国数英の代表者と協議スタート。 ▲ あいかわらず、中間考査の欠点者が多いという事実。R5→R6：1年(155→63)、2年(90→50)、3年(80→39) 	B
	② 学習指導法の改善・授業力の向上	教務部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全教科、年に1回、授業公開・合評会を実施し、指導法の改善を行う。 ○ 学校生活アンケートの「各教科の授業内容はある程度理解できている。」という項目の全学年90%以上を目指す。 ○ 中学校との教科交流会を年1回実施し、情報交換や指導法の改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年1回の授業公開を実施し、授業力向上に努める。 ○ 西都市内の中学校と国数英の教科交流会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度まで3年間ICT活用をテーマに各教科で授業改善研修を行ってもらった。来年度はテーマを一新する予定。 ▲ 学校生活アンケート「各教科の授業内容はある程度理解できている」と答えた生徒が、6月→10月の推移で、1年95.7%→87.6%、2年91.8%→92.6%、3年90.5%→93.0%、全体で92.6%→91.1%となり、昨年度同時期の88.3%→91.2%とほぼ同じとなった。 ▲ 教科交流会(国数英)を通じて中学校との連携を深めたが、実施形態を含め改善の余地がある。 ○ 卒業・進級認定について目線合わせを行った。 	B
	③ 系統的な進路指導・妻高スタイルの充実	進路指導部	[進 学] <ul style="list-style-type: none"> ○ 1・2年生ともに校外模擬試験におけるGTZ:B2ランク以上を40名以上育成 ○ 難関大学、難関学部を目指す生徒の育成 ○ 高次資格取得に向けた取り組みの支援 [就 職] <ul style="list-style-type: none"> ○ 進路ガイダンスを通した進路意識の醸成 ○ 資格取得に向けた取り組みの支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア意識を醸成する指導の研究と実践 ○ 一人ひとりを伸ばすための学力検討会の実施と教科担任との情報共有 ○ 上位層を伸ばすための計画的指導と実践 ○ 生徒が進路意識を高めるようなガイダンスの在り方を研究する。 ○ 様々な資格検定に合格させるための指導はどうあるべきかを研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年全クラス対象に職業体験ガイダンス11/5を実施。12月・3月の職業理解講座を12月のみ実施とし行事を精選。 ○ 学力検討会を、成績上位層だけでなく中間層や困難層それぞれについて検討できるように、教務部・文理科学コース・普通科と協力しての実施に変更。 ○ 1・2年生の朝課外に難関大コースと標準コースを設置し、生徒が選択して受講できるよう、講座制に変更し実施中。3年タ課外は11月から再開。※進研11月GTZ:B2ランク以上(1年:36名/2年:36名) ○ 1・2年情ビジ・福祉科を対象としたJA・宮交day(10/10)を実施。大学等の説明会に公欠で参加することを許可し、ガイダンス参加の機会を拡充。 ○ 情ビ科の朝課外を資格検定の5日前から実施。試験内容と種類に対応した課外時間割を作成し、7月から稼働。福祉科は 昨年度の課外をタ課外のみに絞って実施したが試験結果は大変良好であった。今年度も3年生のみ9月からタ課外を実施中。介護福祉士国家試験合格を支援する。 	B
	④ 進路実現を補完する事項の精選	進路指導部	[進 学] <ul style="list-style-type: none"> ○ 学力向上のための取り組みの精選 ○ 進学先の選択肢を広げるための取り組みの充実 [就 職] <ul style="list-style-type: none"> ○ 就職開拓のための取り組みの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新教育課程入試に対応し、これからの時代に必要となる資質や能力の育成やその指導の在り方について研究し実践する。 ○ 課外や土曜講座の在り方を検討し、よりよい形を模索する。 ○ どのような行事をすべきか精選し、充実したものを目指す。 ○ 面接や小論文の指導の在り方を研究し実践する。 ○ 来校された企業に厚く対応し、信頼関係を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の実態を踏まえ、学力検討会の形式を変更。第2回目は12/13。2学期の課題考査と校内実力考査と統合し、基礎基本から思考力・判断力・表現力を問う考査として実施。 ○ 生徒一人ひとりが自ら考え、選び、主体的に学習に向かい合えるように、課外を講座制に移行させた。1年難関・標準だけは国数英セットにしたが、科目ごとの選択の方が良いのかも含め、次年度の在り方を検討中。 ○ 本年度6月に実施した3年進路説明会を、2年次の3月に前倒して実施することを現在検討中。 ○ 面接・小論文指導について、8月に生徒向け及び職員向けの研修を実施。 ○ 昨年度以上に多くの企業が来校。定期考査中も含め、進路指導室の来客対応当番表を作成し、丁寧に対応できるようにした。就職 支援エリアコーディネーターの池田さんと連携して取り組んでいる。 	B

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
確かな学力の向上	⑤ 進路実現の支援	進路指導部	○ 国公立大合格者数の40名以上 ○ 私大・短大・専門学校合格率95%以上 ○ 就職内定率100%	○ 全職員で面接・小論文の指導にあたる。また、上位層を伸ばす個別指導を充実させる。 ○ 専門学校に進学する生徒へも基礎学力や知識を保障するような指導の在り方について研究し、手厚い指導をする。 ○ 一般企業や公務員志望の生徒が早い段階から自ら動くことができるように支援する。	○ 学力向上の指標として、各学年において GTZ:B2 ランク以上の人数を注視し、校外模試を有効使用してもらう。3学年と協力して、生徒一人ひとりの進路希望に応じた面接・小論文指導計画を立て、全職員の協力を仰いで実施中。※国公立大学(20名/41名受験、合格率49%) ○ 4月、9月に基礎学力を診断する進路マップを実施。進路マップの受験や事前指導を通して、国数英の基礎学力を身につけさせる。1年生について入学後の学び直しの再検討が必要であり、教務部と連携する。 ○ 6月から、3年就職希望者に公欠を認め積極的に企業見学に行かせた。大原とビジ公に協力して頂き、オンライン講座も含め公務員対策講座を9月まで実施した。	B
	⑥ 朝読書の充実	図書渉外部	「朝の10分間読書」の充実を推進するとともに、生徒の図書の貸出冊数や利用数を上げる。また、図書委員会の充実を図る。	各教科・各学年と連携を取りながら読書指導にあたり、と共に、図書委員が呼びかけて朝読書の取り組みを促進させる。また、進路指導の一助となる専門書や必要な資料の充実を図るとともに、新聞を利用した情報活用の取り組みを活性化させる。	朝読書の時間帯に、各学年を手分けし様子を見回った。図書委員が前に座り、呼びかけることで1学期より充実した朝読書の時間に改善されているように思える。	B
	⑦ 学習指導法の改善・授業力の向上	図書渉外部	授業でも利用しやすいように、図書室の学習環境を整え、授業の有効活用の推進を図る。	多くの生徒または職員が、図書室を利用できるように図書室の環境を整備し、年間利用者数や本の貸出冊数を上げる。さらに、授業でも有効活用できるように学習環境を整える。	昨年度のこの時期よりも、図書の貸し出し数は増えている。さらに、生徒や職員が利用しやすいように図書室の環境を整備していきたい。	B
	⑧ ICT教育の推進	キャリア情報部	○ Google Workspace x Microsoft 365 を中心としたクラウドサービスの利用を推進する。 ○ 校務・授業においてICT機器を積極的に活用する。	○ Google Workspace Microsoft teams の利用を推進する。また、職員研修等を通じて、生徒の活動の記録に留まらず、面談や進路指導等に活用できるようにする。 ○ 「一人1台端末」のスムーズな導入を行うため、生徒・保護者に対する事前説明及びフォロー体制を整える。学校内での利用について、端末の活用に加え、情報モラやセキュリティ面についての正しい知識を身につけさせる。 ○ 本校に配備されたタブレット等のICT機器の授業への利用方法について職員に周知する。また、授業に活用するために必要な機能を充実させる。	○ 全2回にわたる「ICT推進委員会」を開催し、次年度は完全なBYODへ移行することに決定した。現中学3年生に適切なアナウンスをすべく、現在案内チラシを作成中。合格発表時に配布できるよう作業を進めている。 ○ 先生方のご協力のおかげで、Google Workspace、Microsoft teams を活用したペーパーレス化が浸透し始めている。 ▲ 生徒用デスクトップPCやネットワーク、プロジェクト周辺の消耗品の老朽化が目立ち、様々なトラブルが発生した。都度、担当者より県へ現状を訴えてはいるものの、予算が厳しいとのことではなかなか改善されていないのがその実情である。学校単独での対応を迫られる場面も多く、事務には無理を聞いて頂いている状況だが、生徒の不利益とならぬよう整備を進めていきたい。	B
	⑨ 創造的な能力と実践的な態度の育成	商業科	商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、経済社会の発展を図る能力と実践的な態度を育てる。	○ インターンシップ(1年)10月22日～24日西都市内を中心に、県内の事業所に3日間のインターンシップを実施し、生徒の職業観を養う。 ○ 本学科の取り組みを全国産業教育フェアと宮崎県産業フェアに出展し、アバターやメタバースなどの特色ある取り組みを広く紹介する。	○ インターンシップ(1年)(3日間)10月22日～24日 西都市内を中心に県内33事業所で3日間のインターンシップを実施した。生徒のアンケートからも礼儀の大切さを感じた、仕事内容に関心を持つようになったなどの回答が多く、普段の学校生活を省みて職業観を養うよい機会になったと考えている ○ 全県産業教育フェア・宮崎県産業教育フェア 全国産業教育フェアは栃木県宇都宮市で行われた。3年生課題研究の生徒たちが本校からオンラインで参加し、アバターやメタバースの取り組みを中心に本学科の特色ある取り組みを会場の参加者の方々に広く紹介した。また、宮崎県産業教育フェアにも出展し、県内の多くの方に本学科の特色ある取り組みをアピールすることができた。	A

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
確かな学力の向上	⑩ 各種検定取得	商業科	各種検定を取得させ、資格取得による達成感を体得させる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生では1学期のガイダンスをふまえ、積極的に検定に挑戦させ、主体的に学ぶ姿勢を養う。 ○ 日本情報処理検定協会主催の検定試験にも積極的に挑戦させる。 ○ 高次な資格である日商簿記やITパスポートにも挑戦する。 	2学期の主な検定試験(合格者数/受験者数) <ul style="list-style-type: none"> ○ 日商簿記 2級8名合格・3級20名合格 ○ 全商ビジネス計算 2級普通計算(54/72)・ビジネス計算(31/72)・1級普通計算(1/1)・ビジネス計算(0/3) ○ 日検(日本情報処理検定協会) プロ1級(30/33)・2級(33/34)・3級(71/71) ○ Webデザイン1級(60/62)・2級(61/63) ○ 表計算2級(74/106) 生徒の学習段階に応じた検定を導入することにより合格者が増え、自信につながり、積極的に検定に向き合う姿勢が見られるようになった。1学期の朝の取り組みの成果が現れていると考える。日商簿記も2級に8名合格、3級に20名合格した。	B
	⑪ 基礎基本の定着	商業科	学力・生活面及びビジネスマナー・情報モラルの基礎基本の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学科集会を実施し、ビジネスマナーや情報モラルの課題についての話や実践活動を定期的に行い定着を図る。 ○ 専門科目の授業とも連携を図り、普段のあいさつなどについても指導を行う ○ ニューモラルや職場の教養などのエピソードを読ませ、倫理観や職業観を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ インターンシップ事前指導やビジネス基礎、総合実践などの授業で、ビジネスマナーやモラル、実践活動を定期的に行った。 ○ ニューモラルや職場の教養などのエピソードを年間をととして定期的に読ませ、倫理観や職業観を養うよう努めているが、一時的なものではなく、年間を通した取り組みが必要である。 	B
	⑫ 専門的知識・技術の定着	福祉科	専門的知識・技術の定着を目指した授業を実践し、学習の成果をあげる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の確保(定期考査1～3日目に4限授業を実施) ○ 長期休暇課外の実施 ○ 進路実現、国家試験に向けた受験態勢確保の整備に向け職員間で連携する ○ 国家試験合格に向けたタ課外の充実 ○ 対外模試の分析及び確認テストの実施 ○ 特編授業(1月)の計画的な実施と充実 ○ 医療的ケアの充実、根拠を持った演習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3年生の夏季休業中の特別授業の実施及び各学年定期考査中の4時間目の授業実施ができた。今後も計画的に確保に努める。 ○ 進路実現に向け、担任を中心として協力しながら取り組むことができた。国家試験へ向けても引き続き協力・連携して取り組んでいく。 ○ 学習に対しての取り組みが甘い生徒が多い。改善に向け、具体的に手立てを講じる必要があるが、学習以前のサポートが必要な生徒がいること、また行事に追われ継続的な学習指導を行う時間を確保できない現状もあり課題である。 	B
	⑬ 資格取得に向けた支援	福祉科	介護福祉士国家試験合格率90%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護実習における知識と技術の習得及び国家資格取得に向けた意識付け ○ 対外模試の実施と活用(全国模試4回実施)・校内模試の実施 ○ 個別指導の徹底と指導の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護実習をととして、介護の仕事卒業後の進路として考える生徒が多くいた。資格の必要性をより強く感じることができるよう各学年、実習後の指導の充実に継続して取り組んでいく。 ○ 対外模試3回終了。模試の活用を引き続き行いながら課題や校内模試を組み合わせ、本番に向け効果的な取り組みを工夫しながら行っていく。 ○ 冬期特別授業、土曜課外、1月の特編授業が成果の上がる充実したものになるよう学科で協力し取り組んでいく。 	B
	⑭ 基礎学力の確立	普通科	① 自宅学習の習慣化 ② 進路に応じた学習の確立	①—ア 保護者と連携した理想的自宅学習サイクルの定着 ①—イ 本校卒業生の大学合格者の事例の紹介(アプリ利用の例を含む) ②—ア 本校単独/他校との合同学習会を通じた学習についての認識改善 ②—イ 業種別の大学/専門学校の比較検討を踏まえた志望校選定	計画立案できていない。	D

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
確かな学力の向上	⑮ 主体的に学ぶ意欲の育成	普通科	○ 高大連携の更なる拡大 ○ 公募制各種コンテストへの応募奨励	①—ア 講師招聘・大学説明会を通じた「大学での学び」に対する興味喚起 ①—イ 保護者の参加を促すことによる家庭全体の進路意識喚起 ②—ア 各教科推薦のコンテストの紹介 ②—イ コンテスト受賞者の全校生徒への紹介	①—ア・イ ・ 京都大学防災研究所宮崎観測所「地殻変動観測に基づく 能登半島地震のメカニズム」(8月24日) ＜参加者＞ 2年3名、1年8名、保護者・教員3名 ・ 宮崎公立大学「『私』の中に社会が見える」(9月28日) ＜参加者＞ 3年3名、2年4名、1年7名、保護者・教員4名 ②—ア・イ 計画立案できていない	C
	⑯ 難関国公立大学及び医歯薬系への進学指導	文理科学コース	○ ベネッセ模試でクラスの核となるA1 ランク以上の生徒を1名以上育成し、A2 ランクの生徒をA1以上に引き上げることを目標とする。九州大学に合格できる 生徒の育成を指針とする。 ○ 医歯薬系希望生徒の進路実現をサポートする。特に医学部医学科進学を目指せる生徒を育成する。 ○ 3年次ではクラスの70%以上国公立大学合格者を目指す。	○ 難関大講座を実施し、普通科も含め成績上位10名～15名の難関大学を目指す集団の更なる学力向上を目指す。進路指導部と連携し、難関大講座を1・2年生は朝課外に、3年生は夕課外に開設する。1年生は九州大学のオープンキャンパス(8/3-4)に参加し、九州大学への進学意識を醸成する。 ○ 生徒との面談を通して医歯薬系を目指す生徒を支援する。西都市地域医療対策室や西都児湯医療センターと連携を図る。 ○ 生徒の進路希望や適性を見極め、総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜を利用して受験に臨む。	○ 11月進研の結果(国数英総合のGTZ)では、A1 ランク以上に1年生が1名、2年生が1名であった。最頻値としては、1年生がB2 ランク、2年生がB2 ランクとなっている。教科担任と連携して、上位層をさらに伸ばすと共に底上げも行いたい。 ○ 医学部志望者(2年生)に対してブラックジャックセミナーを紹介した。1年生に医歯薬系希望生徒は、現段階ではない。 ○ 学校推薦型選抜Ⅰ・総合型推薦選抜を終えた。学校推薦型選抜Ⅱ、一般入試をこれから迎えるに当たり、担任等と連携して対応していきたい。	B
	⑰ これからの大学入試を見据えた学びの推進	文理科学コース	○ 各種グランプリやコンテストに応募し 挑戦させ、生徒の主体性の育成を図る。 ○ キャリア情報部と連携し、探究型学習 活動を推進し、プレゼンテーション能力を育成する。	○ 1・2年生では「県サイエンスキャンプ」1・科学の甲子園県予選、3年生では科学系オリンピックへの参加を推奨する。 ○ 「総合的な探究の時間」にて取り組んだ研究を、文系班は「マイプロジェクトアワード」、理系班は「県サイエンスコンクール」へそれぞれ出品し、上位大会進出を目指す。	○ 文理学習会の中で学年縦割りの班で活動する「マニファクチャリング」を実施し、チームで試行錯誤しながら進めていくことが好評であった。その結果、科学の甲子園への申込みも多くなった。 ○ 19日の文理科学コース課題研究発表会に向けて、2年は準備を進めている。情報科と連携し、より良い発表にしていきたい。	A
妻高ブランドの確立	⑱ 各学科・コースの魅力づくりの推進	教務部	○ 新課程カリキュラムを完成し、各学科、コースの魅力づくりにつなげる。 ○ オープンスクールの内容を再検討し、アンケートにおいて「良かった」と感じる生徒の割合を90%以上にし、志願者増につなげる。	○ 新課程にあわせたカリキュラムの完成を目指す。 ○ 年に2回実施されるオープンスクールの実施方法、内容を検討し、中学生に選んでもらえるような魅力ある学校づくりにつなげる。	○ 6月のオープンスクールでは新たな試みとして在校生による部活動紹介プレゼンを実施した。アンケートで良かったと感じる生徒が96.1%と、高い満足度を得ることができた。 ○ 第1回オープンスクール(6/22) 中学生404名・保護者246名の参加 ○ 第2回オープンスクール(10/19) 中学生158名・保護者90名の参加 ○ 普通科の魅力づくりの検討。カリキュラム等の再検討。 ○ 教育課程説明会でどのような生徒を育てたいのか。妻高のスクール・ミッションと目指す生徒像に立ち返りもっと保護者に説明する必要がある。 ○ 令和7年度年間行事予定の検討	B

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
妻高ブランドの確立	⑱ 特別活動の推進	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の主体性の育成を図る。 ○ 生徒会や各種委員会活動で学校全体の活性化を図る。 ○ 部活動生がリーダーシップを発揮し、学校全体を盛り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事や各種委員会における生徒の主体的な運営を推進する。 ○ 生徒会の活動を支援し、さらなる活性化を図る。 ○ 部活動生集会やキャプテン会を適宜開き、部活動を活性化するための課題・具体的な解決の方策を練る。 ○ 生徒の活動状況を妻高HPやインスタグラム等で発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会とHolliesを中心にひいらぎ祭文化の部を行うことができた ○ 台湾交流や西都市戦没者追悼式など、生徒会が様々な場面で活躍している。3学期は選挙の際に公約として掲げた内容について活動していく予定。 ○ 風紀委員会による放送による呼びかけや服装チェック、交通委員会による施錠やヘルメット着用の呼びかけ等、各種委員会もそれぞれ主体的な活動が見られた。 ▲ 部活動の活動状況を外部に発信する取り組みができていない。 	B
	⑳ PTA活動の充実	図書渉外部	生徒の健全育成のために保護者や地域との連携を深め、PTA活動や研修の活性化とPTA活動の参加率を上げる。	PTA各委員会の活動内容を見直し、保護者全体で取り組めるような活動の在り方を考えていく。また、本年度は、児湯地区PTAの事務局にもなっているので、研修会を実施し積極的な参加を促す。	全国高P連大会(8/21～23)、県高P連大会(10/10～11)、児湯地区母親研修会(11/27)に参加し研修を深めることができた。さらに、本校が担当となる普通・総合学科部会研修会(12/6)も開催予定である。また、広報委員会のPTA新聞発行、生活委員会の夏祭り巡回指導(7/19-21)などPTA各委員会も活動した。また、本校が児湯地区PTAの事務局になっているので、児湯地区母親研修会(11/27)の実施、今年度の会計処理まで実施していきたい。	A
	㉑ スクール・ミッションの策定	図書渉外部	進路指導を充実させるために、各学科に必要な専門書や、進学に必要な資料や蔵書の充実を図る。	進路実現に向けた小論文指導や教科指導に向け、図書の整備を進め、蔵書の充実を図る。不足している分野の補充に努めながら、話題の本や新刊書の購入も積極的に行いたい。そのため、昨年に引き続き図書館及び蔵書室の整理及び古い蔵書の廃棄処分を計画的に行っていく。	1学期に続き、蔵書の整備や古蔵書の廃棄処分は、計画的に実施されている。さらに小論文指導や教科指導に関わる進路実現に向けた図書の整備や生徒達への周知をしていきたい。また、西都市の取り組みである「18歳の図書館」について、図書委員会を中心に協力することができた。	A
	㉒ キャリア教育の充実	キャリア情報部	各学科・コースに応じた探究活動の実践を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年次において、普通科・情ビジ科共通の学びを通して探究・記録の方法や地域の抱える課題について学ぶ。2学年次より地域経済や教育機関と連携した探究活動に取り組む。 ○ 各学科の目指す進路に応じた大学・企業訪問等を通して進路意識を高め、また、望ましい職業観・勤労観を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大きなトラブルもなく、計画通りに充実した総合的な探究の時間を実施できた。 ○ 月1回の担当者会の実施により、実施内容の伝達・調整がうまくいっている。 ○ 次年度のスタートがスムーズにいくよう、すでに少しずつ準備を始めることができている。 ▲ 担当の先生方の尽力により、活動自体は成立しているが、やはり2学年の先生方の負担は大きい。 ▲ 状況によっては、学年をまたいでのご協力を切望したい。 ▲ 全てのコース・科と共に学ぶ利点もあるが、コース・科の特殊性を考えると、時期をみて活動を分けて実施し、最終的に発表を通じて共有しあうことがよいのではないかと。 	B
	㉓ 在校生・卒業生が満足できる学びの提供	普通科	① 英検取得率の向上 ② 情報系資格取得率の向上	①—ア 1年生段階からの/第2回・第3回での計画的な受験の促進 ①—イ 受験前の級別学習会の継続的实施(英語科への依頼) ②—ア 1年次授業「情報」の履修を踏まえた資格取得への意欲喚起 ②—イ 3年次授業「情報処理」受講生徒全員の取得(商業科への依頼)	①—ア 2024年度第2回結果 <2級>2名/35名(5.7%) <準2級>12名/25名(48.0%) ①—イ 英語科が自主的に開催してくださった ②—ア 3学期に受験可能な検定の案内を計画中(教科担任より) ②—イ 第138回情報処理技能検定試験(表計算)2級25名/34名(73.5%) 文書デザイン検定試験2級12/6受験予定	B

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
豊かな心の育成	妻高ブランドの確立	文理科学コース	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文理科学コース3学年間の縦の繋がりと一体感を醸成するために、生徒が・活躍する場を提供し、コースとしての魅力を高める。 ○ 学校行事や対外的な活動を通して、生徒が文理科学コースの一員として誇りをもって活動できるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間12回実施を目途に文理科学コース集会を実施する。司会・運営を生徒に任せ、様々な行事や大会等で活動した生徒たちの発言の場を作る。学年を超えたグループ活動を通して、縦の繋がりと一体感を醸成する。 ○ オープンスクール、地域の小中学校との連携・協働を通して、コース代表として生徒たちが活躍できる場を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3回の文理科学コース集会を始め、土曜講座2回、科学の甲子園勉強会2回を実施した。縦の繋がりと一体感を醸成することができた。 ○ オープンスクール10月では、文理学習会での「マニファクチャリング」を模した協働活動を中学生と在校生で実施した。普段の学びを生かした活動であり、在校生自身も文理科学コースの一員として誇りを持てた。 	A
	②⑤ 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全職員で生徒に時間・服装容儀・あいさつ・接遇などについてのマナーを身につけさせることができるよう共通理解を図る。 ○ 問題行動の未然防止を図る。 ○ 安全意識の醸成を図り、施錠率100%、ヘルメット着用率50%以上をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 率先して服装・容儀やマナー違反への声かけをし、生徒の規範意識を醸成するとともに、定期的に全職員にルールの確認を行う。 ○ 朝夕の校門指導や学校内外の巡回指導を定期的実施する。 ○ 生徒の実態に応じた講話や集会等を実施し、問題行動の未然防止につなげる。(薬物乱用・ネットトラブル・いじめ防止等) ○ 西都警察署や関係機関と連携して、交通安全に対する意識付けを行い、自転車やバイク通学生対象の講習会を定期的実施する。 ○ 自転車の整備、施錠点検等を実施するとともに、自転車通学生のヘルメット着用についても呼びかけ、安全意識や交通マナーの向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的に先生方と本校のルールについて共通理解を図り、様々な場面で指導していただくことができた。 また、「生徒指導だより」を通じて本校のルールについて発信することもできた。生徒の規範意識は少しずつではあるが醸成できていると感じる。 ○ 必要に応じた講話や集会等の実施はできた。 ○ 西都警察署による交通安全教室とバイク通学生の講習会が実施できた。 ○ 自転車施錠とステッカー貼付の一斉指導を行うことができ、施錠率の向上に繋がった。64%(1学期平均)→82%(2学期平均) ○ 自転車ヘルメット着用率4%(1学期)→14%(2学期) ▲ 登下校や送迎のルールの徹底。 ▲ 「内規集」は今後改善を図っていく予定。 ▲ 校内巡回指導や下校指導への取り組み。 ▲ 西都自動車学校からの協力が得られなかった。 ▲ ヘルメットの必要性を実感させる手立ての検討。 	B
	②⑥ いのちを大切に する教育の推進	保健環境部	<p>自他の安全と健康及び生命の大切さを理解させ、その実現に必要な知識と実践する力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健の授業における心肺蘇生法及びAED操作研修の実施 ○ 職員対象心肺蘇生法及びAED操作研修の実施 ○ 保健講話の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各部と連携していのち大切にする教育の推進に努めたい。 ○ 性教育講座→1学期特編7/16(1・2年生)、3年生12/10→2/21(延期) ○ 心肺蘇生法・AED講習会【職員】7/1(西都市消防署) ○ 薬物乱用防止教育(西都警察署)10/1(1年生)実施 講師：妻高OB 	B
	②⑦ 健康安全教育の推進	保健環境部	<p>健康及び安全の保持増進のための知識理解を深め、実践する力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健の授業の充実 ○ 各種健康診断等の目的及び事前、事後指導を実施 ○ 体育授業時の安全管理指導の徹底(学期1回の点検) ○ 行事前の健康相談の実施 ○ 日常的な保健指導の実施 ○ 保健委員会活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健体育科や関係職員と生徒の体調・事前健康相談等の情報共有を行った。 ○ 生徒への保健指導のため、最新の情報収集に努めた。 ○ 各種健康診断は、職員・生徒の協力により問題なく終了。 	B

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
豊かな心の育成	㉔ 環境美化・環境整備の充実	保健環境部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 美化ボランティアを実施し、環境美化 に対する意識高揚を図る。 ○ 教室の環境整備、ゴミの持ち帰り、分別の徹底を図り、ゴミを減量化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 美化ボランティア活動を学期1回実施する。 ○ 学期1回「校内美化週間」を設け、美化委員を活用しながら教室の整理整頓の状況を点検する。 ○ 廊下のゴミ箱を最小限にとどめ、持ち帰りの徹底を図り、ゴミを減量化する。（年間の業者引き取りゴミ袋の数を減少させる） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学期に第1回校内美化週間を実施し、取りかかり、教室の整理整頓、ゴミの減量を中心に実施を行った。 ○ 2学期の校内美化週間では、美化委員が清掃状況をチェックし、放送で取り組みの良いクラスの紹介等を行った。 ○ 今後もゴミの持ち帰り指導を周知徹底していきたい。 	B
	㉕ 毎日の清掃の徹底	保健環境部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 師弟同行、率先垂範で生徒ともに清掃活動に当たることを目標とし、職員、美化委員による評価の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎日の清掃活動を充実させる。 ○ 「校内美化週間」を設け、職員、美化委員で清掃状況の評価を定期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昼休み明けの取りかかりについて、放送での呼びかけを工夫。 ○ 先生方がついていたいていない清掃区域の清掃状況が悪いところが見られる。率先垂範で指導をお願いしたい。 	B
	㉖ 防災教育の充実	保健環境部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防災に対する意識の高揚を図り、危機管理を徹底させて避難訓練や消火訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年2回の避難訓練を行い、2回目の訓練においては、主体的に訓練に臨めるよう、時間の予告をしない、或いは避難経路が使えないなど工夫し、緊張感が持てるようにする。 ○ 避難訓練を通して、職員の役割分担や緊急時行動マニュアルの確認を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回避難訓練は、火災を想定して西都市消防本部とも連携して実施。煙をあげ、防火扉を作動させて避難できない経路を作った。実施反省を検討し今後に活かしたい。 ○ 第2回は、11月に地震を想定して実施。今回は教室外へ避難せずに点呼のみとした。安否確認も初めて実施。反省アンケートに上がったものを今後に活かしたい。 	B
	㉗ 不登校・不登校傾向の生徒への取り組み	教育相談部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の変化に目を向け、早い対応に努める。 ○ スクールカウンセラーと連携し対応する。 ○ 生徒のトラブル等を未然に防ぎ、不登校等による転退学者数の減少を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年会に出会し、担任や副担任、学年との連携を密にし、保護者とも連絡を取りながら迅速に対応する。 ○ 生徒の現状や課題を捉えるために「学校生活アンケート」を実施する。 ○ スクールカウンセラーと連携し、生徒、保護者のカウンセリングを適宜実施する。 ○ 学校不適応や友人関係トラブルを未然に防ぎ、積極的な生徒研修等の検討及び実施を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 10月実施の「学校生活アンケート」では、現在いじめを受けていると回答した生徒が1名いたので、その後、生徒指導部へ対応をお願いした。いじめを見たという生徒3名については聞き取りをして、担任の見守りのお願いをしている。 ○ スクールカウンセラーとの連携については、定期的なカウンセリング、職員研修を実施した。 ○ ライフスキルの計画が3学期の課題である。 	B
	㉘ 特別支援教育の必要な生徒への取り組み	教育相談部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援の必要な生徒を把握 ○ 特別支援教育に関する教科担任会等の企画・運営 ○ 外部機関との連携(しろやま支援学校、児湯るびなす支援学校、明星視覚支援学校、宮崎県発達障害者支援センター等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新入生の実態把握のため、保護者、出身中学校向けアンケートの実施、中高生徒指導連絡協議会への参加。 ○ 特別支援が必要な生徒についての理解、支援方法等について、必要に応じて教科担任会等を実施する。 ○ 特別支援学校の巡回相談、宮崎県発達障害者支援センターと連携し、生徒及び保護者の支援にも努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達障がいのある生徒の保護者から、個別的教育支援計画作成の依頼があった。3年の2学期という時期の依頼は、はじめてであったが迅速な対応に努めた。 ○ 見え方に困り感のある生徒について、スクールカウンセラーや県発達障害者支援センターと連携して、検査・診断に繋げた。 	B

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
豊かな心の育成	③③ 組織及び取り組み	教育相談部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育相談部として、関係機関・団体等との連携を推進する。 ○ 生徒理解のための校内連携を深める。 ○ 相談室の環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関係機関・団体との連携についての情報収集と具体的取り組みを進める。 ○ 生徒指導連絡協議会での情報把握、新入生登校日を利用した生徒情報収集、学校生活アンケートを生徒の実態に合わせて実施していく。 ○ 教育相談室運営について、利用生徒が増加したときにも対応できるよう考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2学期の相談室利用は延べ13名であった。（1年2名、2年1名、3年3名） ○ これからの課題として、相談室は利用しない不登校傾向の生徒の対応を考えていきたい。 	B
	③④ 福祉従事者としての意識づけ	福祉科	福祉職従事者として必要な資質を身に付けさせる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心を育てる専門の授業の実施及び学科運営 ○ 他学年と交流を図る機会を設け福祉を学ぶ生徒としての意識づけを図る ○ 介護実習(校内・校外)の充実に向けた事前指導、事後指導の徹底と実習施設との連携 ○ あいさつの励行、言葉遣いや容儀指導等の日常指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年、介護の魅力発信事業をはじめ、産業教育フェア、オープンスクール等多くの各種行事に精一杯取り組み、その都度成長がみられた。 ○ 1学期に引き続き、学科間での学年を超えた学び合いの機会を持つことができた。今後も機会を捉えて実施していく。（2・3年生テスト前合同学習会の実施・魅力発信事業への取り組み） ○ 全学年今年度の介護実習を計画どおり実施することができた。感染症による急な対応を余儀なくされる事態が多々あったが、施設と連携しながらその都度対応することができた。 ▲ 実習施設によって実習の受け入れや指導内容に差を感じるがあった。生徒にとって充実した実習になるよう手立てを講じる必要がある。 ▲ 学科の生徒として、身に付けさせたい力をどのように伸ばしていくか模索中である。 	B
地域とともにある学校創り	③⑤ コミュニティスクールの推進	教務部	中高連携の取り組みを積極的に行う。	教科交流会・聖陵セミナー等を通じて、中学校との連携を深める。	聖陵セミナーを生徒募集に積極的に利用したい。	C
	③⑥ 地域・小中連携の推進	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の教育力や教育資源を学校教育に活かす。 ○ 自転車交通安全モデル校として、西都警察署や地域と連携して、交通マナー向上を発信していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域のボランティア活動に積極的に参加させる。 ○ 学校行事を通して地域との交流を深める。 ○ 行政機関等と連携して、問題行動の未然防止を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域から要請のあったボランティアに、少人数ではあるが意欲的に参加する生徒が見られた。 ○ 地域の販売店から、自転車ヘルメット着用推進に有効な協力が得られている。またPTAの協力も得られている。 ○ 西都市青少年育成センターの活動の一環として、巡回指導や委員会での意見交換を行った。 ▲ キラキラ大作戦への参加者は多いが、その他のボランティアへの参加は多かったり少なかったりと偏りがある。 	B
	③⑦ コミュニティスクールの推進	図書渉外部	同窓会その他関係機関と連携しながら、100周年記念事業を継承し、地域と共にある学校を目指す。	地域と共創しながら、本校ならではの事業を展開することで、生徒達の母校への帰属意識を高める。	3学期も同様に、地域や同窓会と連携をはかり、生徒達を地域の行事やイベントに積極的に参加させ、地域と共にある学校としての意識、母校への帰属意識を高める。	B
	③⑧ 広報活動の充実	キャリア情報部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学校ホームページ」やSNSの積極的な運用を行う。 ○ 「妻高だより」（年4回）の発行・「学校 看板」の掲示(年12回)を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ インターネットを利用した情報発信については、学校CMSの内容充実とSNSを活用したタイムリーな発信を目指す。 ○ 妻高だよりについては、年4回の発行を行う。学校看板については、原則として12回作成する。広報委員会及び各分掌、学科と連携し、内容を充実させる。また、近隣の小中学校や市役所等を通じて、地域に広く配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 妻高だよりは、計画通りに作成を行い、西都市役所にポスティングに行き、回覧板等を使って地域住民にも広く広報活動を行うことができています。 ○ 学校看板は、毎月新しい作品を掲示し、登校時の生徒・職員や地域住民の目に触れることができています。 ○ ホームページは、広報委員を中心として、適宜更新を行うことができています。 ○ 公式SNSは、2年総合的な探究の時間の生徒と担当者でタイムリーな情報発信ができています。 ▲ SNS運用ポリシーの策定を進める。 	B

自己評価【A：十分達成している B：おおむね達成している C：検討の余地がある D：不十分である】

重点目標	評価項目	分掌	評価指標・数値目標	方策・手立て	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価
地域とともにある学校創り	③⑨ 小中学校との連携	普通科	① 小中学校主催事業への積極的な協力 ② 各種ボランティアへの積極的参加	①—ア 小中学校における学習支援事業への生徒派遣 ①—イ 中学校における英検サポート事業への生徒派遣 ②—ア 各種ボランティア周知の拡大 ②—イ 継続的なボランティア参加者の全校生徒への紹介	①—ア・イ 管理職・英語科に実施していただいている ②—ア 本校第2回オープンスクール(10/19)にて「高校入試チャレンジ」にて1・2年有志生徒による参加中学生への指導実施 ①—ア 妻中1年生向け「高校の学びから職業を考えるキャリア学習」(11/27)にて2・3年生による本校の学びの紹介 ②—イ 実施できていない	C
	④⑩ 中高連携	文理科学コース	中高連携の取り組みを積極的に行っていく。	教科交流会、聖陵セミナー等を通じて、中学校との連携を深めていく取り組みを行う。	今年度の聖陵セミナー初回7/24(水)の終了時に 文理科学コース担任の3名がセミナー会場を訪れ、文理科学コースのアピールを行った。	B